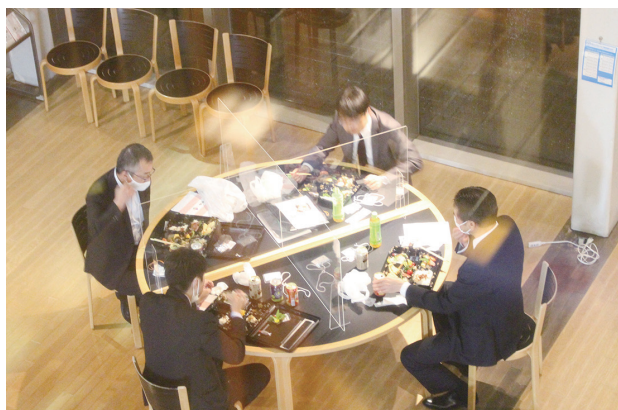


● 本会の動き ●

☆ 2021年第47回経営ゼミナールに参加して ☆

今回参加させて頂いた経営ゼミナールは化学工学会が提供する技術者の生涯学習の一環として1975年から続く歴史あるゼミナールです。第47回目となる今年は、「明日の日本を私が創る～VUCA時代、自ら乗る波を起こせ!～」をテーマに化学会社、石油会社、エンジニアリング会社などのマネジメント層を中心に38名が参加いたしました。

ゼミナールは8月から11月にかけて4回のセッションで進められ、各分野において著名な講師の方々によるテーマに沿った講演とグループ討議で構成されておりました。昨年に続き今年も新型コロナウイルス禍での開催となり、第1回、第2回セッションでは、講演会、討論会、懇親会を含め全てオンラインでの開催となりました。第3回、第4回セッションでは感染状況が落ち着いたことから、オンサイトでの開催（一部オンラインでの参加）となりました。オンサイトでは、感染防止対策として検温、手指の消毒はもちろんのこと、講演会やグループ討議の開催様式だけでなく、人数を制限しての懇親会や、食事や宿泊などについても細心の注意と可能な限りの対策を事務局の方々には実施して頂いたおかげで、全セッションにおいて何の問題も無く参加することができました。



グループ討議ではまず第1回セッションにおいて事前アンケートに基いて同じテーマを課題と考えているメンバーを中心にグループ分けされ、各自の悩み、課題について共有し合い、グループ毎の解決すべき課題を設定しました。第2回、第3回セッションでは、課題解決のヒント探しとして、ランダムな人選でグループを構成し、「働き方の多様化と意識改革」「リーダー像・リーダーシップとは」「技術継承と人材育成」「変革マインドをどう育てていくか」をテーマに多くの意見交換をおこないました。最終セッションでは第1回セッションのグループに戻り、これまでのセッションで得た知識や気づきを基に設定した課題の解決に向けたグループ毎の決意宣言をまとめ上げ、発表いたしました。

我々のグループでは、生き残る為の強い組織を作る為、リーダーとして自身がどうあるべきか、細かな課題は異なるものの、それぞれが今後実践していきたい内容を共有した上で纏め、今後の人生に役立てていくことを誓い合いました。

普段はほとんど機会の無い、同業種、同世代、同様の社内立場の方々との討議では、別の会社とはいえど、同じような悩み事や問題点を抱えている状況を共有できたことに加え、自分の知らない先進的な取り組みについてもお聞きすることができました。多くの方との討議の中で、共感し、新たな気づきがあり、また自分の状況や悩みを皆さんに説明していくことで、自分自身の状況も整理でき、新たに認識できたこともありました。このグループ討議を通して、多くの刺激をもらうことができました。

また、セッションが進むにつれて各参加者の方々との距離も縮まり、ゼミナール終了後も連絡を取り合っていくことを約束するなど、通常の業務とはまた違った貴重な人脈を作ることもできました。



各セッションでは、VUCAの時代におけるリーダーのあるべき姿や、なすべきことのヒントとなるテーマにて多岐に亘る視点から計9回の講演を聴講させて頂きました。どの講師の方々からも溢れる情熱、強い信念を感じることができ、その中でもそれぞれのテーマに沿った講演内容で、リーダーとしての考え方に限らず、実に多くのキーワードやアドバイスを頂き、多くの貴重な気づきを得ることができました。以降、各々の講演について振り返ってみたいと思います。

【東海セッション 8/27～28

邦和セミナープラザ(名古屋)⇒ オンライン】

◆「デジタル化の波と現場力 ～今、求められている企業変革とは～」

(株)シナ・コーポレーション 代表取締役 遠藤 功氏

VUCA時代において、未来が読めず、答えが無い中で生き残る為の方法、その中でのDXの在り方について教えて頂きました。未来が読めないからこそ、自らの在りたい未来像を示し、そのゴールに向かって進む。答えが無いからこそ、実行しながら答えを見出していく。「実行」こそが勝負の分かれ目。戦略(ビジネスモデル)1割、実行9割で、強い企業は非凡な現場を作っている。など、数々の企業でのコンサルティングの実例も示して頂きながら、非常に

共感できる気づきを与えて頂きました。

◆「VUCA時代の生き残りをかけて

～イノベーション・変革を起こし続ける為のアプローチ～

X-TANK コンサルティング CEO 伊藤嘉明氏

日経ビジネスの「次世代を作る100人」にも選ばれ、数々の大手企業の赤字部門の業績をV字回復させた経験も踏まえ、予測不能なVUCA時代に必要な考え方について講演頂きました。違和感を大事にすることで、そこから発想力と行動力が生まれ、それが、差異力となる。差異力が人生を切り開く源となる。VUCA時代のリーダーシップ7原則。など、具体的な体験を交えて教えて頂き、特に数々の企業での経験談からは大きな刺激を受け、「できるだけではなく、やるかやらないか」など、心に残る言葉も頂き、今後の自分の行動を見直すきっかけにもなりました。

【習志野セッション 9/24～25

トーセイホテル&セミナー幕張(習志野)

◆「幸せに働くカギ～これからの働き方とチームづくり～」

ユニリーバ・ジャパンHD 取締役人事総務本部長 島田由香氏

コロナウイルスによって、これまでの“当たり前”がどう変わったか、その変化から何を学んだか(失ったか)という問いから始まり、自分自身の状況を見つめ直し、これからの働き方、Workation/WAA (Work from Anywhere & Anytime) cationや、これからの組織の在り方、Wellbeingについて、説明頂きながら、ワークショップ形式での協議で皆さんの状況も共有し、理解を深めました。Wellbeing向上は、個人にとってだけでなく、ビジネスとしても成長のカギであることが分かり、自分自身、周囲の皆をWellbeingであることに注力することが大事だと気が付いたので、まずは自分の組織内でWellbeingを高める為に自分に何ができるか考え、行動に移したいと思いました。

◆「人事尊重マネジメント～多様性? 大事なものは受容性～」

(株)インスティテュート 代表取締役会長 稲増美佳子氏

リーダーとしてプロジェクトメンバーが一人ひとりの能力を最大限発揮できるようプロジェクト環境を提供できるようになる為の講演を頂きました。チーム内の心理的安全性を確保・提供できるリーダーとしてのコミュニケーションを身に付ける。これまで以上に魅力的なリーダーである為に、新たな対応力を身に付けて自分をアップデートする。ことを狙いとして、一人ひとりとは違う、人間尊重の考え方、その違いを受け入れ尊重するマネジメント方法を紹介頂きました。その中で印象深かったことは、人は誰しも「無意識の偏見」を持っていることを自己認識し、違いを受け入れ尊重すること。信頼関係構築の為に傾聴すること。いい質問をして相互理解を深めること。効果的なフィードバックをおこなうこと。でした。早速自分自身のマネジメント手法として取り組みたいと思いました。



【関西セッション 10/22～23

ダイセル西播磨研修センター(相生)+オンライン

◆「ニューパラダイム～変革を巻き起こす生き方・働き方とは～」

プロノイア・グループ(株) 代表取締役, (株)TimeLeap 取締役
ビョートル・フェリクス・グジバシ氏

コロナ禍において、これまでの当たり前が当たり前でなくなることを実際に経験している現状において、変革を巻き起こす生き方、働き方を、本質的に考えるきっかけとなる講演を頂きました。変化の波に乗れるかどうかは、常に自分に軸をもって変化が起きても対応できるよう構えておき、タイミングを逃さないことが大事。自分の状況を認識すること、世界の状況を認識すること、その中で自分には選択肢があること、自分が選択したことに対する責任とその影響を考えることが大事と気づかされました。また、その考え方の根本として、自分が生きている意味を問われた際に、自分には明確な答えが無く漠然と生きていることにも気が付きしました。大きなテーマではありますが、自分の生きる意味を改めて考えていく中で、この講演の内容を意識してみようと思いました。

◆「町工場から宇宙へ!「まいど1号」打ち上げ奮闘記」

(株)アオキ取締役会長, 東大阪市モノづくり親善大使
青木豊彦氏

町工場から人工衛星を打ち上げるという大きなプロジェクトを立ち上げ、数々の困難を乗り越えて、まいど1号を成功裏に打ち上げた体験談を紹介頂きました。プロジェクト途中では、技術的、運営の困難に遭遇しながらも、青木さんの情熱に周囲が巻き込まれ、大きな力となって困難を克服していった話に感銘を受けまし



た。とにかく熱い情熱で、講演後は何か自分もアクションを起こさなければという高揚感がありました。自身の業務においても、論理だけではなく、信念、情熱をもって進めることが大事だと思います。

◆特別企画「和楽の世界 狂言への誘い」

能楽師 狂言方 和泉流 重要無形文化財総合指定保持者
小笠原由嗣 氏

能楽師として、人間国宝の野村萬氏、故八世野村万蔵氏、及び九世野村万蔵氏に師事され、日本文化を広める為にフランスなどでも積極的に公演をおこなわれている、小笠原先生に狂言について講演頂きました。狂言の歴史、用語や所作について実演を交えて解説頂き、演劇や歌舞伎とは異なり、大掛かりな舞台装置や、小道具を用いずに、所作、表情、セリフのみで観客へその世界を想像させ楽しませるといふ、600年前から続く庶民喜劇である狂言に触れ、シンプルに面白く感じました。最後は受講生全員での狂言体験として、屋外で青空の下、いくつかの狂言の場面を演じてみて、更に奥深さを実感できました。



【幕張セッション 11/26～27

クロスウェーブ幕張(千葉)+オンライン】

◆「OODA時代を生き抜くリーダーの条件」

航空評論家(元日本航空機長)、危機管理専門家 小林宏之 氏
長年に亘る機長としての経験、数々の修羅場体験から、有事におけるOODAの重要性を説明頂き、具体的な話でもあり、大変分かりやすく理解を深めることができました。リーダーは非常時にこそ自分をコントロールすることが大切であるということは頭では理解するものの、実践するには日頃の訓練が必要と感じました。また、危機管理と健康管理は相通じるものがあるとはこれまで自分に無い視点での健康管理の捉え方であり、自身の健康管理も意識して取り組んでいきたいと思いました。今の時代、PDCAサイクルを回す時間もないほど目まぐるしく環境が変わり得る為、OODAを実践できる組織作り、意識付けに取り組んでいきたいと思いました。

◆「幸せな職場で働くということ」

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
前野隆司 氏

幸せとは何か、人はどうすれば幸せになれるかという根本的な問いに対して、心理学や哲学の側面からだけではなく、データやエビデンスに基いた科学の領域から、「幸福学」として、幸せに生きる為の考え方や行動を科学的に検証し、実践に活かす為の学問として研究されている内容を紹介頂き、幸福であることが仕事においても人生においても、プラスの作用ばかりという説明を頂きました。第2回セッションでもWellbeingがいかに素晴らしいことなのか実感しましたが、更にデータやエビデンスからの説明を受け、自身も配下も幸福であることを目指さない理由は無いということに、非常に納得しました。



【最後に】

ご講演頂きました講師の皆様、充実したプログラムをご準備頂いた事務局と世話役の皆様には厚く御礼申し上げます。また、グループ討論で悩みや気づきを共有させて頂いた第47期の皆様方にも改めて御礼申し上げます。今年も新型コロナウイルス感染症に対する感染予防対策で、最初2回は完全オンラインでのセッション開催でしたが、後半では念願のオンサイトでの開催が叶い更に親睦を深めることができ、思い出深いゼミナールとなりました。47期の方々とは良き同窓として親交を継続、再会することを約束させて頂きました。最後に本ゼミナールが今後も末永く続き、化学業界並びに化学工学に携わる方々の交流と発展に寄与していくことを祈念いたします。

(三菱重工パワーインダストリー(株) 高橋秀郎)

